

# 春メロンを中心とした園芸産地の育成

平成 18 年度に行った茨城県メロン生産実態調査において、茨城県在住及び同町生産組織に属する生産者は、行政が主体となり、メロン生産者が一体となって産地振興できる組織設立を望んでいることが確認されました。19 年度から、正確な栽培技術や病虫害防除、適正な農薬指導が実践でき、メロン生産者への支援及び産地振興が図れる産地体制づくりに取り組んできました。

## ● メロン産地体制づくり ●

19 年度より、メロン生産者への支援及び産地振興を図るため、組織設立を推進してきた結果、産地の危機意識の高まりや「A 水戸茨城県メロン部会や丸茨連合会等生産組織の協力も得られ、平成 20 年 10 月 21 日「茨城県メロン生産者情報連絡会」設立総会（メロン生産戸数 152 戸中 139 戸が加入）を開催、産地が一体となった体制が整備できました。



「茨城県メロン生産者情報連絡会」設立総会



メロン接ぎ木栽培講習会

## ● 連作障害対策の推進 ●

栽培技術研修会やメロン生産実態調査での個別巡回において、接ぎ木苗利用による安定生産及び還元型太陽熱土壌消毒による菌密度の低下などを説明するなど、メロンつる割病対策への技術指導を継続しています。その結果、メロンつる割病により経営に影響がでる生産農家は減少しています。平成 20 年産の接ぎ木苗利用数は 49.8 万本（99 戸、66.4ha）、還元型太陽熱土壌消毒面積は 31.8ha（64 戸）でした。

## ● メロンの高品質化と大玉生産 ●

どのような気象条件にも対応できるよう適正管理を徹底するため、「茨城県メロン生産者情報連絡会」の情報伝達経路を活用し、全会員へメロン情報を 4 回発行（H20 年度末現在）・発信しました。

「イバラキング」の試験栽培を実施中であり、果実肥大は既存品種より良好で増収が期待できます。しかし、5 月上旬出荷作型でのネット形成が難しく、栽培技術の確立が課題となりました。



メロン病虫害発生活長調査（品種：イバラキング）